

提供年月日：令和7年（2025年）12月26日
所 属 名：滋賀県立美術館
担 当 者 名：小松（広報担当）、荒井（学芸担当）
連 絡 先：077-543-2113
E - m a i l：museum@pref.shiga.lg.jp

企画展「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」 2026年1月17日（土）～3月22日（日）



1. 本展について

滋賀県立美術館では、笹岡由梨子の美術館での初めての個展として、「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」を開催します。

グランフロント大阪の南館せせらぎテラスで時を刻む《MUSE》（2025年～）、東京の表参道交差点で愛を歌い上げた《LOVERS》（2024年）など。あなたがどこかで一度でも、笹岡由梨子の作品を目にしていたら、生涯忘れることはないかもしれません。笹岡の作品は、それほどまでにエネルギッシュで、魅力的な、唯一無二の世界観を持っています。

笹岡由梨子は1988年、大阪府生まれ。2014年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程メディア・アート領域満期退学。京都府文化賞奨励賞（2020年）、咲くやこの花賞（2020年）、Kyoto Art for Tomorrow 2019—京都府新鋭選抜展最優秀賞など、受賞多数。現在、滋賀県を拠点に活躍しています。

笹岡は2011年から映像を用いて作品を制作しています。笹岡の作品には、自身が演じたり、あるいは顔や身体の一部を流用したりしたキャラクターたちが登場します。これらの少し不気味でコミカルなキャラクターたちは、初期の作品では映像の中にしか存在しませんでした。しかし、近作では立体物として存在するキャラクターの目や口が映像にすぐ替わるなど、作品における映像とキャラクターの関係は逆転しつつあります。

そして、そのキャラクターたちは笹岡が自作した歌を歌っています。マーチの曲調に乗せられているのは、それぞれの作品が持つ「愛」や「家族」といったテーマに向けた、笹岡のシンプルで力強いメッセージです。

加えて、笹岡の作品に特徴的なのは、現実と区別がつかないような仮想現実の映像が溢れる現代において、あえて編集のノイズを残していることです。これは、絵画における筆のタッチに通じ、笹岡は映像における絵画的なものへアプローチしようとしています。

本展では、最初期の作品から近年発表された近作、そしてこの展覧会のために制作された新作の展示を通して、笹岡の作品における、映像とキャラクターの関係性とその変遷に迫ります。少し不気味なキャラクターたちが真摯に愛を歌うパラダイスが連なる、仄暗い展示室のダンジョン。笹岡由梨子の作品世界に、足を踏み入れてみませんか。

2. みどころ

■今注目のアーティスト、笹岡由梨子の美術館での初個展

笹岡由梨子は、滋賀を拠点に国内外で活躍しています。近年では、東京の表参道交差点での《LOVERS》（2024 年）や、グランフロント大阪に設置された《Muse》（2025 年）、大阪万博の関連イベントでの《Polonia》（2025 年）の展示などで、大変注目を集めました。また、国立国際美術館で現在開催中の特別展「プラカードのために」にも参加しています。

本展は笹岡にとって、美術館で開催される初めての大規模な個展です。



笹岡由梨子《LOVERS》2024 年 滋賀県立美術館蔵
Photo by Masanobu NISHINO

■幻の初期作から、 これまでの重要な作品を展示

本展では、笹岡が初めて制作した幻の映像作品《無題》（2011 年）を初展示するほか、「群馬青年ビエンナーレ 2017」で大賞を受賞した《イカロスの花嫁》（2015-2016 年）、2025 年 12 月 21 日に開館したタイの新しい現代美術館、ディブ・バンコクに収蔵された《Animale》（2024-2025 年）、ポーランドとのコラボレーションで制作された《Polonia》（2025 年）など、これまでの作品の中でも、特に重要な作品を展示します。



笹岡由梨子《イカロスの花嫁》2015-2016 年

笹岡由梨子《Polonia》2025 年 撮影：麥生田兵吾
Courtesy of the Adam Mickiewicz Institute(IAM)



■本展のための

新作《タイマツ》を初公開

既存作だけではなく、本展のために制作された新作《タイマツ》を初公開。料理をテーマにした本作は、横幅7メートルを超える万華鏡仕立ての映像を中心としたインスタレーションです。

なお本作は、滋賀県大津市の継続型就労支援 B 型作業所「蓬菜の家」の皆さんとの協働や、美術館サポーターなどから公募した皆さんに映像にご出演いただくなど、様々な方のご協力のもと制作されました。



笹岡由梨子 新作《タイマツ》
イメージドローイング

■笹岡由梨子のスタジオを再現

ドローイングやインタビューも展示

笹岡は映像作品を制作する際に、大量のドローイングを描きます。本展では、笹岡のスタジオを模した一室を設け、これまでに描かれたドローイングの一部をご紹介します。加えて、本展や新作、作品制作についての笹岡へのインタビュー映像も展示。作品だけではなくドローイングやインタビュー映像を通して、笹岡の作品制作の一端に迫ります。

3. 作家紹介

笹岡由梨子

笹岡由梨子は1988年、大阪府生まれ。2014年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程メディア・アート領域満期退学。京都府文化賞奨励賞（2020年）、咲くやこの花賞（2020年）、Kyoto Art for Tomorrow 2019—京都府新鋭選抜展最優秀賞など、受賞多数。現在、滋賀県拠点。

笹岡由梨子氏近影
Photo by S.C.Felix Wong



4. 開催概要

展覧会名：企画展「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」

展覧会名（英語）：Special Exhibition Sasaoka Yuriko's Paradise Dungeon

会 期：2026年1月17日（土）～3月22日（日）

休 館 日：毎週月曜日（ただし祝日の場合には開館し、翌日火曜日休館）

開場時間：9:30～17:00（入場は16:30まで）

会 場：滋賀県立美術館 展示室3

観 覧 料：一般 1,300 円（1,100 円）

高校生・大学生 900 円（700 円）

小学生・中学生 700 円（500 円）

※（ ）内は20名以上の団体料金

※企画展のチケットで展示室1・2で同時開催している常設展も無料で観覧可

※未就学児は無料

※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方とその介助者は無料

主 催：滋賀県立美術館、京都新聞、株式会社メルコグループ

協 力：ディブ・バンコク、アダム・ミツキエヴィチ・インスティトゥート（IAM）

後 援：エフエム京都

企 画：荒井 保洋（滋賀県立美術館 主任学芸員）

5. 小さなお子さんがいる、障害があるなど、何らかの理由で来館を迷っている方へ

滋賀県立美術館では、展示室でもしんと静かにする必要はなく、おしゃべりしながら過ごしていただけます。また、目が見えない、見えづらいなどの理由でサポートや展示解説をご希望される場合や、その他、ご来館にあたっての不安をあらかじめお伝えいただいた際には、事前の情報提供や当日のサポートのご希望に、可能な範囲で対応します。

6. ご来場にあたって

出品作品はほとんどが上映時間10分ほどの映像インスタレーションです。作品の特性上、会場が暗くなっておりますのでご注意ください。

7. いつでも楽しめるワークショップコーナー（ドロップインワークショップ）

滋賀県立美術館内の3か所に、本展に関連したドロップインワークショップ（鑑賞者がいつでも参加できるワークショップコーナー）を設けます。笹岡の作品の特徴である顔や身体の一部を流用したキャラクターに、参加者の身体の一部を合体させ「パラダイス・ダンジョンの住人」というキャラクターになるという、子どもから大人までご参加いただけるワークショップです。展覧会の観覧とともににお楽しみください！

8. 図録

本展に出品される作品だけでなく、2011年以降笹岡が制作した作品を網羅した図録を出版します。笹岡の初めての作品集でもある一冊です。各作品の豊富なカラー図版と作品解説、作品で歌われている笹岡自作の歌詞、担当学芸員の論考を掲載。そして、この作品集のため収録された、笹岡由梨子と漫画家東村アキコの対談も特別掲載されています。

笹岡のこれまでの作品がまとめられ、その制作の一端に触れることができる貴重な内容になっています。

9. 関連イベント

◆学芸員によるギャラリートーク [事前申込不要／当日先着順／要観覧チケット]

本展の担当学芸員が見どころを解説します。

日 時：1月24日（土）、2月7日（土）、2月21日（土） 各日とも14:00～15:00

場 所：滋賀県立美術館 展示室3前

定 員：各回とも20名程度

◆スペシャル・トーク [要事前申込／抽選／要観覧チケット]

笹岡由梨子氏による作品解説を行います。

日 時：1月31日（土）14:00～15:30

場 所：滋賀県立美術館 木のホール

定 員：100名

◆たいけんびじゅつかん [要事前申込／抽選／要参加費（保護者の方のみ要観覧チケット）]

小・中学生とその保護者の方を対象に、本展の鑑賞とワークショップを組み合わせたイベントを開催します。

日 時：2月14日（土）時間帯調整中

場 所：滋賀県立美術館 ワークショップルーム

講 師：笹岡由梨子氏

定 員：調整中

10. 次回開催予定の展覧会（企画展）

展覧会名：「ためして、みる展」

会 期：2026年4月17日（金）～2026年6月21日（日）

会 場：展示室3

概 要：

本展では10種類の特別な鑑賞方法を提案します。例えば、畳の上に靴を脱いで上がり、寝そべったり座布団に座って作品を見たり、あるいは、双眼鏡を使って作品の全体と細部を見比べたり、また別のコーナーでは、暗闇で懐中電灯を照らして作品のかたちやシルエットを浮かび上がらせたり。どの鑑賞方法も、子どもにはわくわくするような作品との出会いを、大人には作品の意外な魅力の発見を、本展ならではの「能動的」な鑑賞体験を提供します。

11. 滋賀県立美術館の概要

- ◆1984年8月26日に滋賀県立近代美術館として開館しました。
- ◆日本画家の小倉遊亀（滋賀県大津市出身）や染織家の志村ふくみ（滋賀県近江八幡市出身）のコレクションは国内随一を誇っています。
- ◆2024年度末時点の収蔵件数は2,729件です（日本画・郷土 1,303件、現代美術 636件、アール・ブリュット 790件）。
- ◆自然豊かなびわこ文化公園内に位置し、周りには、滋賀県立図書館や滋賀県埋蔵文化財センター、茶室「夕照庵」などの文化施設とともに、日本庭園「夕照の庭」や子どもたちに大人気の遊具を備えた「わんぱく原っぱ」、自然とふれあえるビオトープなどが広がっています。
- ◆美術館北側敷地内の「彫刻の庭」には、ドナルド・ジャッド、ケネス・スネルソン、速水史朗、井上裕加里の作品4点を展示しています。また、美術館の西側（公園の敷地内）にある「彫刻の路」には、山口牧生、村岡三郎、植松奎二の作品3点を展示しています。



滋賀県立美術館外観（撮影：大竹央祐）



滋賀県立美術館エントランスロビー（撮影：大竹央祐）

12. プレス内覧会

- (1) 開催日：2026年1月16日（金）
- (2) 会場：滋賀県立美術館（大津市瀬田南大萱町 1740-1）
- (3) タイムスケジュール【予定】

①プレス限定の内覧会

- 13：30～14：00 受付
- 14：00～14：45 笹岡由梨子様と本展担当学芸員 荒井保洋による展覧会場のご案内
- 14：45～15：15 説明会（展示室3前）
 - ・当館ディレクター 保坂健二郎のご挨拶
 - ・笹岡由梨子様のご挨拶
 - ・質疑応答

※13：30～14：00 は、展覧会場を自由にご取材いただくことができます。

②招待者や関係者による内覧会

- 15：30～15：50 オープニングセレモニー
 - ・当館ディレクター 保坂健二郎のご挨拶
 - ・京都新聞社 滋賀本社 代表 石川一郎様のご挨拶
 - ・株式会社メルコグループ 代表取締役社長 牧寛之様のご挨拶
 - ・笹岡由梨子様のご挨拶

15：50～18：00 内覧会（招待者らが展覧会場を自由にご観覧）

※自由にご取材いただくことができます。ただし、オープニングセレモニー中は、展覧会場に入場いただくことができませんので、あらかじめご容赦ください。

(4) 参加申込み

参加を希望される方は、別添「プレス内覧会参加返信表」に必要事項をご記入の上、2026年1月15日（木）までに、メールまたはFAXにてお知らせください。お車で越しの場合は、びわこ文化公園の駐車場（無料）をご利用ください（機材の持ち込みなどの都合上、美術館前までお車の乗り入れが必要な場合は、別途ご相談願います）。

(5) 注意事項

天災地変等の突発的な事情により、内覧会の内容を変更させていただく場合や開催を中止する場合があります。なお、開催中止の場合は、参加申込みの際にいただいたご連絡先にお知らせします。

プレス内覧会参加返信表

申込期限:1/15（木）

滋賀県立美術館 行き

Fax : 077-543-2170

Email : museum@pref.shiga.lg.jp

<必要事項>

1) 貴社名 :

2) ご芳名 :

※参加される方すべてのご芳名を記入してください。

3) 参加人数 :

4) TEL :

5) E-mail :

6) 通信欄 :

広報用画像等申込書

滋賀県立美術館 行き

Fax : 077-543-2170

E-mail : museum@pref.shiga.lg.jp

展覧会広報用素材として、作品画像を用意しています。ご希望の方は使用条件をお読みいただき、必要事項をご記入のうえ、メールまたは FAX にてお申し込みください。なお、読者プレゼント用の招待券の提供をご希望の場合は、本申込書の記載欄に併せてご記入ください。

媒体名 :

種 別 : テレビ ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー WEB 媒体 その他

発売・放送予定日 :

貴社名 :

ご担当者名 :

E-mail :

T E L :

招待券希望枚数 : 枚 (送付先住所 :)

ご希望の画像に ☒ をつけてください。

<input type="checkbox"/>	① 笹岡由梨子《LOVERS》2024 年 滋賀県立美術館蔵 Photo by Masanobu NISHINO
<input type="checkbox"/>	② 笹岡由梨子《Polonia》2025 年 撮影：麥生田兵吾 Courtesy of the Adam Mickiewicz Institute(IAM)
<input type="checkbox"/>	③ 笹岡由梨子《イカロスの花嫁》2015-2016 年
<input type="checkbox"/>	④ 笹岡由梨子《Animale》2024-2025 年 ©S.C.Felix Wong Courtesy of Dib Bangkok
<input type="checkbox"/>	⑤ 笹岡由梨子 新作《タイマツ》イメージドローイング
<input type="checkbox"/>	⑥ 笹岡由梨子《ヘロー ホーリー！》ドローイング
<input type="checkbox"/>	⑦ 笹岡由梨子《Pranaria》2021 年 滋賀県立美術館蔵
<input type="checkbox"/>	⑧ 笹岡由梨子氏近影 Photo by S.C.Felix Wong
<input type="checkbox"/>	⑨ チラシ表
<input type="checkbox"/>	⑩ チラシ裏
<input type="checkbox"/>	⑪ バナー
<input type="checkbox"/>	⑫ 滋賀県立美術館外観 (撮影：大竹央祐)
<input type="checkbox"/>	⑬ 滋賀県立美術館エントランスロビー (撮影：大竹央祐)

〔使用条件〕

※広報用画像をご使用の際は、各画像のクレジットを明記してください。

※広報用画像はすべて全図で使用してください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねるなどはご遠慮ください。

※展覧会基本情報と広報用画像の使用法の確認のため、お手数ですが、校正原稿を当館へお送りくださいますようお願いいたします (記事内容や報道原稿を確認する意図ではございませんので、念のため申し添えます)。

※アーカイブのため、後日、掲載誌 (紙)、URL、番組収録の DVD、CD などをお送りください。

※広報用画像は本展の広報・報道のみのご利用となります。ご利用後は必ずデータを破棄していただくようお願いいたします。

①



②



③



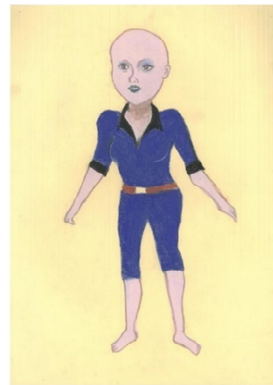
④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬

